

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	一般小売店〔カメラ〕 （店長）	・新製品のカメラが発売されることから、販売量の増加が期待できる。
		スーパー（店長）	・今年は天候に恵まれ米が豊作であること、また、ガソリン価格も下落傾向にあることから、県内全体の景気はやや良くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・ミニバンや軽自動車など、人気車種のフルモデルチェンジを控えており、大変期待している。特に軽自動車は、量販車種であり、一気に巻き返しをねらっている。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・季節の変わり目の時期や、寒暖の程度により売上が変わるが、今年は寒い冬になるという情報があり、防寒着が売れると見込んでいる。
		高級レストラン（支配人）	・予約が前倒しで入っており、今後、クリスマスケーキやおせちの販売も始まることから、売上の増加が期待できる。
		一般レストラン（経営者）	・今年は米の豊作が見込まれるため、農繁期の前後は景気が良くなる。特に小麦価格の高騰で米が見直されており、自ら販売ルートを確認する農家が増えている。農家にとっては組合の買取り価格より売値が高く、消費者は一般の販売店より安価で購入できるため、米質と生産量さえ確保できれば、買手も見付けやすい。
		観光型旅館（経営者）	・JR6社と地元自治体、観光業者による大型観光キャンペーン「デスティネーションキャンペーン」が、10月から3か月間開催される。キャンペーン効果と秋以降のガソリン価格の値下げにより、年内は景気はやや良くなることが期待される。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊客数が上向きであり、今後、景気全体も良くなると予想している。地震の風評被害は多少残るものの、夏の天候が比較的安定していたこともあり、秋は観光客が増加する。
		住宅販売会社（従業員）	・年明けの受注予定物件が高い確度で入ってきている。
変わらない		百貨店（企画担当）	・オリンピックが終了し、天候不順が続いているため、商圏内の消費マインド低下が懸念される。ガソリンや食料品の値上がりを抑制するため、早期の政治決断を期待している。
		百貨店（営業担当）	・宝飾品、絵画、ギフト、土産物など、百貨店が本来得意とする分野が弱含みの状況にある。生活必需品ではないだけに、今後消費マインドが相当上向かないと苦戦が続く。
		百貨店（売場担当）	・秋冬物商戦を迎えるが、物価高騰により客の節約志向が更に高まるため、衣料品関係は最も影響を受ける。
		スーパー（店長）	・あらゆる物の値上げにより、消費者の買い控えが顕著になっており、この傾向は今後更に強まる。
		スーパー（店長）	・ガソリンや物価高の影響で、家庭内での食事や弁当が増え、肉、野菜、惣菜の販売量は伸びるが、嗜好品、雑貨では節約志向が現れ、全体では大きい変化はない。
		スーパー（店長）	・競合店の出店により来客数は激減したが、今後は、前年並みで推移していく。
		スーパー（総務担当）	・物価の上昇は、家庭内食事への追い風となっているが、客は生活必需品にも吟味した購買行動をとっており、今後も厳しい状況は続く。
		コンビニ（エリア担当）	・原油価格高騰に伴う交通量の減少は今後も続くため、来客数が回復する見込みは無い。
		衣料品専門店（経営者）	・物価上昇が続く一方で、所得は一向に増加しない。地方の不況感は特に強く、景気回復は見込めない。
		衣料品専門店（店長）	・ビジネス衣料の買い控えが続くなか、カジュアル衣料でどこまでカバーできるかが今後のかぎとなる。このような状況は当面続く。
		衣料品専門店（総務担当）	・来客数、客単価、買上点数共に落ちており、消費の低迷は今後も続く。
		乗用車販売店（経営者）	・秋に新モデルが投入される予定であるが、ガソリンの高値安定が続けば、販売量の増加は難しい。
		その他専門店〔化粧品〕（経営者）	・原材料価格が高騰し、先行きに不透明感が漂うなか、商品開発が進まず、需要の増加は期待できない。ただし、ファッション分野での購買力向上に期待感がある。
		その他専門店〔呉服〕（経営者）	・食料品など、生活必需品の価格が上昇するなか、購入を我慢できる商品の売上は良くなることはない。

	一般レストラン（経営者）	・レストランでの外食はぜいたくであるという雰囲気が増しており、今後もこのような状況が続く。
	スナック（経営者）	・物価上昇に伴い消費が落ち込んでおり、この状況は今後も変わらない。
	旅行代理店（従業員）	・現在の悪い状況が、これ以上悪くなることは考えられず、良くなることも期待できない。
	タクシー運転手	・限られた客を取り合う状況は変わらず、悪い状況は変わらない。
	タクシー運転手	・原油価格の高騰など景気が悪くなる要素はあるが、回復する要素は見当たらない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・食料品などの必需品の物価上昇が他商品の販売を阻害する状況が続いている。9月からガソリン価格が下がるようだが、今後の見通しは不透明であると言えない。
	商店街（代表者）	・地元大型商業施設の閉店や、周辺地区での大型店の新規開店により、当商店街を取り巻く環境は一段と厳しさを増している。
	商店街（代表者）	・例年、商店街の8月は、お盆までは稼ぎ時で、後半は閑散とするが、今年は閑散度合いが大きく、このまま秋冬物商戦に突入するのではないかと心配している。
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・物価や灯油価格が高騰するなか、一般消費者にとって当店の取扱商品は優先順位が低いことから、今後売上は減少する。
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・消費意欲を減退させる話題があまりにも多い。サブプライムローン問題は収束するどころか、拡大の様相を示しており、景気は今後も悪化する方向にある。また、消費者の節約も限界に達している。
	百貨店（売場主任）	・生活防衛型の傾向が強まり、客は低価格商品を選んで買うようになる。
	百貨店（販促担当）	・美術工芸品、宝飾品、特選ラグジュアリーブランドの売上が前年に比べ大幅に減少しており、今後も浮上の兆しがみられない。この分野の売上構成比は大きく、他の商品でカバーするのは難しい。
	百貨店（経営者）	・秋冬物が本格展開するものの、ヒット商材は少なく、消費の減退が続くなかで、改善する材料が見当たらない。
	百貨店（経営者）	・食料品や公共料金などの値上げにより、客の生活防衛意識が更に高まる。
	スーパー（経営者）	・ガソリンの高値安定や、物価の上昇が続くなか、収入は増加しないため、客の消費マインドは更に冷え込む。景気対策として、減税などが論じられているが、全くの未知数であり、今後もこの厳しい状況は続く。
	コンビニ（経営者）	・タスポ効果が落ち着いてきている。また、ナショナルブランドよりプライベートブランドの動きが良く、相変わらず客の財布のひもが固い状況が続いている。近辺を見渡しても、今後景気が上向き要素は見当たらない。
	コンビニ（経営者）	・気温の低下や新しいチェーン店の開店が影響して、今後、売上、来客数が共に減少する。
	コンビニ（エリア担当）	・売上が改善する明るい材料が見当たらない。
	コンビニ（エリア担当）	・タスポ導入後、来客数は増加しているが、たばこ以外の商品の売上は、前年を下回る状況が続いており、今後、その傾向が強まる。
	衣料品専門店（経営者）	・冬物のジャケットやコートなどの単価が高い商品の売上が期待できない。
	家電量販店（店長）	・来客数は減少していないが、単価が低下しており、この傾向は今後も続く。景気が底冷えしており、年末に向けて不安である。
	乗用車販売店（経営者）	・物価の高騰に伴う購買意欲の減退は、車のような高額商品ほどその影響は大きい。9月以降も日用品や食料品、タイヤの値上げがあることから、景気は更に冷え込む。
	住関連専門店（経営者）	・物価や株値の動きに明るい材料が乏しく、地方は特に悪い状況にある。
	その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・市場が値上げムードにあるなか、法人、個人客との契約額が下落している。市場のバランスを欠いた状況は、今後も続く。
	その他専門店〔食品〕（経営者）	・原油価格の高騰や食料品の値上げなどが続き、景気が回復する環境にはない。
その他専門店〔酒〕（経営者）	・消費者の買い控え傾向は今後も継続することから、景気の回復は困難である。	

	その他専門店〔酒〕 (営業担当)	・消費マインドが冷え込むなか、10月に実施される清酒の価格改定は、売上に大きな影響を及ぼすため、大胆な方針転換が必要である。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕(営業担当)	・客の買い控えがかなり浸透してきたため、今後も厳しい状況が続く。
	一般レストラン(スタッフ)	・ガソリンの高値安定が続けば、景気は更に悪くなる。
	観光型旅館(経営者)	・地震による風評被害や度重なる水害など、悪い材料しか見当たらない。今後は、旅行会社や鉄道事業者が実施するキャンペーンに積極的に乗り込んでいく。
	都市型ホテル(経営者)	・予約の状況から、宴会部門は、前年比60%程度、宿泊部門は、団体客の減少により90%程度の売上を見込んでおり、先行きに不安を残している。
	都市型ホテル(スタッフ)	・新規オープンビジネスホテルが出そろい、宿泊料金は1泊3,000~5,000円が主流となっていることから、価格競争に太刀打ちできない。
	都市型ホテル(スタッフ)	・原油高や原材料価格の高騰の影響により、企業が会合を控える傾向が出てきている。
	旅行代理店(従業員)	・燃油サーチャージなどの不安要素があり、今後も厳しい状況が続く。
	通信会社(営業担当)	・商品の動きが悪く、11月までの売上は、前年比30%の減少を見込んでいる。
	通信会社(営業担当)	・燃料価格の高騰により、ますます利益が圧縮され、景気が回復する要素は全く無い。
	遊園地(経営者)	・競合する大型商業施設の開店や、物価上昇による家計圧迫の影響が懸念される。
	美容室(経営者)	・物価の高騰により、消費マインドが低下しており、少なくとも冬のボーナス時期までは悪い状況が続く。
	美容室(経営者)	・物価上昇が続く限り、景気回復は望めない。
悪くなる	商店街(代表者)	・物価の高騰やゴミの有料化などによって消費者の懐事情が厳しくなり、節約志向が高まっている。小売業は大変厳しい状況にあり、限界に達している。
	百貨店(経営者)	・灯油価格が高騰するなか、暖房需要期を迎えると、消費者の生活防衛意識は更に高まり、景気に悪い影響を及ぼす。
	スーパー(経営者)	・ガソリンは高値安定で推移しているが、食料品はこれから秋にかけて価格が上昇するため、今後、来客数は横ばいで推移するものの、客の買上単価、点数共に低下する。
	スーパー(経営者)	・食料品の更なる値上げや、暖房用の灯油需要の増加により、景気は悪くなる。
	スーパー(店長)	・競合店が開店して以来、来客数が戻らない。また、ガソリンや食料品の値上がりを背景に消費マインドが更に低下する。
	コンビニ(経営者)	・原油価格の高値安定、物価上昇、公共料金の値上げにより、今後の見通しは暗い。
	衣料品専門店(経営者)	・優先順位が高い冬の暖房費が家計を圧迫し、衣料品は買い控えの傾向が強くなる。
	衣料品専門店(店長)	・物価高騰の影響により、今年の春から30~40代の来客数が減少していたが、最近は、消費が活発な10~20代の客にも買い控えの傾向が出てきている。
	衣料品専門店(店長)	・ガソリン、灯油価格の高騰は、冬を迎えるこれからの景気に大きな影響を与える。
	自動車備品販売店(経営者)	・景気が回復するための好材料が全くない。米の収穫期は多少消費に弾みがつくが、ガソリン価格の高騰で例年の消費は見込めない。
	住関連専門店(経営者)	・原材料費の高騰が企業経営を圧迫して、賃金が上がらない状況が続くため、消費抑制傾向が更に強まり、耐久消費財の売上は伸び悩む。
	住関連専門店(経営者)	・中小企業の労働者は収入が少なく、ガソリン価格や物価の高騰に悩まされている。買物を控える、移動手段を自転車やバイクに変更するなど、今後、景況感は更に悪化する。
	一般レストラン(経営者)	・原材料価格の高騰や増税により、景気は悪化しており、国による大きなてこ入れがないと、この先もかなり悪くなる。原材料によっては、2~2.5倍値上がりしている物もあり、厳しい状況が続く。
	一般レストラン(経営者)	・政府の景気対策は、机上の論理であり、末端の現場まで景気が良くなる要素は無い。
	その他飲食〔弁当〕(スタッフ)	・原材料価格の高騰に伴い、総菜や弁当を9月から全品20~100円程度値上げすることから、売上は減少する。

		競艇場（職員） その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・物価の上昇により、娯楽にお金が出回らない状況が続く。 ・製造や輸入商社とは違い、消費者に近く、競合があり、差別化が困難なため、製品価格の値上げができない。人件費などの経費の抑制以外に策はない。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる 変わらない	土石製品製造販売（従業員） 電気機械器具製造業（営業担当） 輸送業（従業員） 広告代理店（経営者） その他企業〔管理業〕（従業員） 協同組合（職員）	・原油価格や物価の高騰により、周辺企業の景気回復は見込めない。 ・原材料価格の高騰に伴い、事業環境が悪化するなか、受注が増加する要素が見当たらない。 ・原油価格高騰の影響により、存続が危うい代理店が出始めている。 ・地元企業には広告を積極的に推進する明るい材料は見当たらないが、県外資本の大型商業施設の進出により、前年度並みの受注を確保している。 ・工場では節減のため、当面は新しい設備の導入はない。 ・受注量に変動はないが、取引先からのコストダウン要請が強く、収益を圧迫する。
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者） 食料品製造業（総務担当） 建設業（経営者） 建設業（従業員） 建設業（企画担当） 輸送業（経営者） 通信業（営業担当） 通信業（営業担当） 金融業（広報担当） 広告業協会（役員） 司法書士 公認会計士 その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・個人消費が落ち込み、お歳暮商戦はかなり厳しくなる。また、原材料価格の上昇が今後も続くことから、経営は一段と厳しくなる。 ・食料品やガソリン価格の更なる上昇により、消費者の節約志向が強まり、財布のひもは一段と固くなる。 ・物価上昇により景気が悪化するなか、客は高額な出費を抑える。 ・民間の設備投資が減少し、公共投資の伸びが見込めない状況が継続する。 ・不動産デベロッパーの倒産が増加するなか、不動産流動化事業に関連する仕事はしばらく望めない状況にある。また、宮城県及び周辺県で製造業の進出ラッシュがあるが、2、3か月先の景気への影響はない。 ・当社の主要荷主の販売量に不安要素があることから、今後、輸送量の減少につながるのではないかと懸念している。 ・当面は自社内でのコスト削減により体力維持に努めるしかない状況である。 ・景気回復のための好材料がなく、先行きが見えないという声を、多くの取引先から聞いている。 ・原油価格の上昇には一服感があるが、いまだ高水準である。当地は冬の灯油需要が大きく、灯油代を確保するため、他の消費を抑制する必要がある。このため、消費の低迷が続く、景気はやや悪くなる。 ・秋に開店する大型商業施設の広告に期待が集まっているが、その他の企業からの引き合いは少なく、下期もかなり苦戦を強いられる。特に地元の広告会社は地元企業からの出稿が減少し、厳しい状況にある。 ・登記件数が、前年同月比マイナス2%、5年前の同月比マイナス26%と、減少傾向が続いており、改善の兆しがみられない。 ・小売関係では、消費者の購買力が戻らず、売上が低下する。また、製造、建設関係では、原材料価格が高騰するなか、受注が伸びず、収益が悪化する。 ・物価が上昇するなか、10月からは清酒の値上げが決定しており、消費の縮小傾向は今後も続く。
	悪くなる	農林水産業（従業者） 農林水産業（従業者） 出版・印刷・同関連産業（経理担当） 一般機械器具製造業（経理担当） コピーサービス業（経営者）	・桃の生産に必要な資機材が大幅に値上がりする一方で、価格は平年並みであり、生産農家の収入が減少する。 ・燃料や肥料、農業資材の価格が高止まりし、収支に影響する。 ・燃料や原材料価格の高騰により、地元企業は、経費削減に力を注いでいるものの、収益は悪化する。 ・自動車部品は、先進国の需要減少が長期化する様相を呈しており、原材料価格が高騰するなか、厳しい状況が続く。 ・法人客が大幅に減少しており、大変厳しい状況にある。また、市内は空前のビル建設ラッシュであるが、空きテナントが目立っている。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-

変わらない	人材派遣会社（社員）	・取引企業で人員を増やす動きが少ない。人件費はかなり厳しく精査され、確実に更新と思われる契約でも回答までに長時間を要している。今後もこのような状態が続く。
	職業安定所（職員）	・新規求人数の減少傾向は今後しばらく続く。有効求人倍率は徐々に低下し、低い水準のまま継続する。
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・収支状況が芳しい顧客企業が減少する。
	アウトソーシング企業（社員）	・これまで比較的景気に左右されていなかった企業からの受託が減少傾向にある。
	職業安定所（職員）	・市内の百貨店では、希望退職者を募るなど明るい材料がない。
	職業安定所（職員）	・新規求人数が、3月以降連続で前年を下回っており、今後もこの傾向は続く。
	職業安定所（職員）	・企業の採用活動の停滞に伴い、求人数の減少が続いており、今後ますます就職が厳しくなる。
	職業安定所（職員）	・原油や原材料価格の高騰に伴うコストアップにより、体力が弱っている企業は、採用抑制や人員整理を実施する。
	職業安定所（職員）	・新規高卒予定者への求人数が、前年を下回っている。採用の中止など、求人申込後に採用計画を変更した事業所も発生しており、状況は厳しくなる。
悪くなる	職業安定所（職員）	・原油や原材料価格の高騰が続く限り、景気は回復しない。
	人材派遣会社（社員）	・直接雇用の流れが加速しており、派遣業界の景気は悪化の一途である。
	職業安定所（職員）	・消費マインドが低下するなか、景気回復の要素が見当たらない。